

人工衛星はいま何機？ 10年で約20倍の理由

2025年の打ち上げは4,517機。何を数えるかで答えが変わる衛星の数と、軌道の混雑への対策を整理します。

「何機あるの？」と聞かれたら、
どの数を答えればいいんだろう？



「衛星の数」は3種類ある

01 **年間の打ち上げ数** LAUNCHED
2025年は**4,517機**（内閣府）

1年間

02 **稼働中の衛星** ACTIVE
約**1万5,900機**（ESA・2026年10月14日更新）

いま動いている

03 **追跡されている物体** TRACKED
約**4万7,080個**（デブリを含む）

役目を終えたものも

打ち上げがここまで増えたのは、
何がきっかけなんだろう？



増加の中心は米国の通信網

2025年に打ち上げられた米国の衛星

3,718 機

全体4,517機のうち

- スターリンク

2019～2025年の7年間で**1万677機**を打ち上げ

- 多数が要る理由

周回衛星は上空を短時間で通過するため、**多数を同時に運用**する

小型化と打ち上げ費用の低下が**衛星コンステレーション**を可能に

小さな破片でも危険な理由

デブリとの平均衝突速度（NASA）

秒速約10 km

最大で秒速約15km

- 集中する高度

デブリが最も集中するのは高度750～1,000km付近

- 衝突の連鎖

破片が別の物体にぶつかり破片を生むケスラーシンドローム

ESAは衝突の連鎖を長期的に最も大きな脅威としている

軌道の混雑への3つの対策

STEP 01

観る

岡山のレーダーと光学望遠鏡で観測
し軌道を計算



STEP 02

減らす

IADCやISOでデブリを減らす国際標準
づくり



STEP 03

除去する

民間企業と組む商業デブリ除去実
証CRD2

観測・国際標準づくり・除去実証、それぞれに仕事がある

まとめ | 人工衛星の数の見方

01 数字は「打ち上げ数」「稼働数」「物体の数」の3種類

02 2025年の打ち上げは4,517機、中心は米国の通信網

03 対策は観測・国際標準づくり・除去の3つ

どの数字なのかを見分けて、
宇宙のいまを知っておこう

何を数えた値かが分かれば、
ニュースの衛星の数も読み解けるよ

